

ちいきそらぞら



第15号

2019.12.19

特定非営利活動法人(NPO法人) にいがた地域創造センター

主な内容

ご挨拶	理事長 田宮 強志…… 1	万内川砂防公園サマーフェスティバルに 関するボランティア活動報告…………… 5
「暮らしやすい新潟、活力のある新潟」の実現に向けて 新潟県土木部長 中田 一男		活動状況報告…………… 6
「第7回地域懇談会 in 佐渡」活動報告 …… 2		河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…………… 7
身近な社会資本の見学会 新潟地域整備部長 山ノ内 久…… 3		組織図・会員の動向…………… 8



ご挨拶

理事長 田宮 強志

平成から令和と一つの時代が終わり、新たな時代の幕開けとなる今年も押し迫り、田で餌を探す白鳥の姿が、冬の到来を感じさせます。会員の皆様には日頃よりにいがた地域創造センターへのご理解とご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。

近年は地球温暖化の影響なのか、気象が従来の想定を超える状況となっております。毎年のように豪雨災害や土砂災害、さらには台風の強風による災害が、これまでの想定を超える規模や地域で発生しております。特に台風15号、19号の勢力があまり落ちないまま強い勢力で関東地方を直撃し大きな被害をもたらしたことは、台風に関する私たちの常識を根本から変えることになりそうです。台風の勢力が落ちないままの上陸は九州、四国、せいぜい紀伊半島までが、関東、時には東北まで強い勢力のまま上陸することが当たり前になるのかもしれませんが。災害大国、日本ではこれまで以上に防災、減災対策を進めていかなければならないとことを改めて実感したところであります。今年も当センターは新潟県からの委託を受け新潟工業高校土木科の1年生を対象に「身近な社会資本の見学会」を実施いたしました。この事業は建設現場視察と山の下閘門排水機場での乗船体験を通じて地域を支え暮らしを守る「土木」の魅力と重要性を実感してもらうことを目的としております。この事業が少しでも多くの高校生が建設産業を職業として選択する契機となり、地域の防災、減災対策を担う建設産業の将来の担い手となっていくよう期待しているところであります。

さて、台風15号、19号の傷跡も生々しい中、ラグビーワールドカップ日本大会が開催されました。ラグビー先進国以外でしかもアジアで初開催ということで、最初は盛り上がるのか心配されていましたが。しかし日本代表の神懸かり的な活躍と結果が日本中に希望と感動をもたらしました。様々な国籍を超えてチーム全員がベスト8という一つの目標に向い、ラグビー精神「ONEFORALL, ALLFORONE」(一人はすべてのために、すべては一人のために)で献身的に戦う姿が日本人の魂に強い共感と感動をもたらしたのではないのでしょうか。日本戦以外はチケットの売れ行きも心配されていたようですが、ほぼ完売。各チームと各地域の交流による様々な心温まるドラマが地域に希望と自信を生み出したと思います。死んだ子の年を数えてもしょうがないといわれそうですが、4万2千人収容で全国有数のグレードを誇るデンカビッグスワンスタジアムを擁するわが新潟県が、もし開催地候補に手を挙げていれば、どんなにか新潟も盛り上がり感動的なドラマが生まれていただろうなと妄想しています。

終わりになりますが当センターでは、これまで行政と連携し様々な活動を行ってきました。当センター会員が持つ技術や行政の豊富な経験を生かした「河川情報モニター」、「都市公園情報モニター」などの活動を通じて、引き続き地域に貢献していければと思っております。会員の皆様には、今後とも一層のご支援ご協力を賜りますことをお願いいたします。

「暮らしやすい新潟、活力のある新潟」の実現に向けて



新潟県土木部長 中田 一男

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

今年は、最大震度7を記録した中越地震から15年を迎え、復興した姿をアピールする年でしたが、6月の山形県沖を震源とする地震、10月の台風第19号による豪雨など、またも災害に悩まされる年となりました。

特に、台風第19号では県内で初めて大雨特別警報が発表され、河川の氾濫に伴う堤防決壊や越水等により県内各地で浸水や施設被害が発生するとともに、道路の崩壊等により集落が孤立する事態となりました。土木部では、被災直後から仮堤防の設置による二次災害の防止や、道路の応急復旧による孤立解消などを速やかに実施し、現在、本復旧に向けて災害査定に臨んでいるところです。

このように全国で激甚災害が多発する状況下で、改めて「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」をはじめとする防災・減災対策の重要性を実感しており、生活や社会経済活動を支えるインフラの効果的な整備や適切な維持管理を着実に推進するため、必要な予算の確保や地方財政負担の軽減などを各方面に働きかけてまいります。

一方、県財政の厳しい状況を受け、「行財政改革行動計画」に基づく投資的経費の見直し等を余儀なくされておりますが、総合計画の基本理念である「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現に向け、土木部では「安全に安心して暮らせる、暮らしやすい新潟」、「地域経済が元気で活力のある新潟」を最優先に、創意工夫をしながら、これからの新潟県の創造に一層努力してまいります。

貴センターにおかれましては、河川や都市公園の情報モニターや「身近な社会資本の見学会」等の取組を通じて、日頃より御支援いただき、改めて感謝申し上げます。地域ニーズに応じた、きめ細やかなインフラの維持・保全やまちづくりを推進するためには、県民の皆様との連携が不可欠となっており、今後とも建設技術を通じて社会貢献を担う貴センターの様々な活動を期待いたしますとともに、益々の御発展を心から祈念いたします。

「第7回地域懇談会 in 佐渡」活動報告

(事業部)

地域へ出向き当法人をPRする地域懇談会を、今年「第7回地域懇談会 in 佐渡」として、令和元年10月30日(水)に正会員15名、賛助会員10名、県関係者19名、一般参加者16名の総勢60名で開催いたしました。

田宮理事長の挨拶から始まり、常山事業部長から当法人の設立趣旨や事業活動と、一般参加者の賛助会員への入会と支援をお願いしました。



次に「佐渡地域整備部管内の土木行政」と題して佐渡地域整備部長の松川真氏から、管内の事業の進捗状況や新たなインフラツーリズムの提案などこれからの可能性についてもご講演いただきました。最後に「佐渡観光の未来を創る」と題して、佐渡観光交

流機構専務理事兼CMOの清永治慶氏から、マーケティングに基づいたコンセプトを明確にし、経営目標を持って佐渡観光に取り組むと力強いご講演をいただきました。

締め括りの懇親会は57名の参加を得て、折笠副理事長の挨拶、県建設業協会佐渡支部長の廣瀬俊三様の乾杯で始まり、有意義で和やかな意見交換となりました。参加いただきました、佐渡地域整備部の皆さん、正会員、賛助会員及び一般企業の皆様には厚くお礼申し上げます。





NPO法人にいがた地域創造センターと連携した
地域を支える建設産業の底力発信事業

身近な社会資本の見学会

新潟地域振興局地域整備部長 山ノ内 久

建設産業は、近年の激甚化・頻発化する豪雨などの災害から、地域の人々の命と暮らしを守るとともに、安全・安心で快適な日常生活を実現するための、社会基盤の整備等を行う本県の基幹産業です。県では、「地域の守り手として輝き続ける産業」を目標に掲げ、建設産業への理解向上に向けた情報発信など様々な施策を展開して、入職促進にも取り組んでいるところです。

当部ではその取組の一つとして、将来の建設産業を担う工業系の高校生により深く建設産業を知ってもらうため、平成25年からNPO法人にいがた地域創造センターと連携し、「身近な社会資本の見学会」を開催しています。今年は、9月10日（火）に開催し、新潟県立新潟工業高等学校土木科1年生35名に参加して頂きました。

最初の座学では、建設産業全体の役割と魅力を紹介し、通船川の成り立ちと山の下閘門排水機場の役割について学習しました。山の下閘門排水機場は、ゼロメートル地帯が広がる通船川流域を水害から守るため、ポンプ排水によって通船川の水位を管理するとともに、2mの水位差がある信濃川と通船川の舟運を確保するため、閘門機能を備えた防災と地域経済活動を支える施設です。生徒のみなさんは、興味を持って熱心に聞いて頂きました。

現地見学では、「山の下閘門排水機場」と県発注工事の「福島漏水門本体工事現場」を見学しました。山の下閘門排水機場では、小型船に分乗し実際に閘門を通過することで2mの水位差を体感しました。生徒のみなさんは、その高低差に驚き、排水機場の役割と重要性を実感していました。福島漏水門本体工事現場では、発注者と請負業者の担当者から水門工事の目的と必要性について説明を受け、最後に行われた先輩技術者との意見交換では、「仕事で苦労したこと」、「土木技術者の女性の割合」、「高校生活で大事なこと」などの多くの質問が出され、建設産業の魅力を感じてくれたようでした。

参加された生徒のみなさんには、今回の様な見学会を体験して、社会資本の役割や建設産業の魅力と重要性について理解し、将来、土木技術者を目指してくれることを期待しています。

最後になりますが、見学会の企画・運営をいただいた、NPO法人にいがた地域創造センターの皆様にご礼を申し上げますとともに、今後の益々の御発展をお祈りいたします。



見学会を振り返って（事業部）

■ 教師の感想

「身近な社会資本見学会」に参加して

新潟工業高等学校土木科 高橋 豊

はじめに

本校土木科の1年生を対象に、毎年実施していたいております見学会に、私も引率教員として参加させていただきました。これまで過去に、参加した同僚職員から、乗船体験もあり1年生にとっては、土木に対する興味・関心を抱く良い機会になるとの話を聞いていたことから、私自身も楽しみにしておりました。また、生徒にとっては、高校入学後はじめての校外での学習という事で、バスでの移動中に

おける姿や集団で行動する場面、説明をしてくださる方との接し方や学ぶ姿勢はどうであるのかという部分においても期待していた所です。

室内学習～社会資本見学

まず、新潟地域振興局の方より、「土木の役割」と題して講話をしていただきました。日常生活で当たり前のように利用しているエネルギーや交通機関など、身近なことから土木が日々支えていることについて、わかりやすくご指導いただきました。

講話に続き、新潟県土木部監理課の方より「私たちの暮らしを支える建設業」と題して建設業の役割について講義していただきました。画像を織り交ぜながら説明をしていただき、生徒も土木が果たす役割について、具体的に考えを深める事ができました。

次に、新潟地域整備部治水課の方より「通船川の成り立ち・役割と山の下排水機場の役割」と題して講義していただきました。冒頭、治水課の方が本校土木科の卒業生である旨を述べられ、高校時代の学習の必要性についても話をしてくださいました。講義の内容から、生徒は、学校がある新潟市内の大半の地域が、海面より低いゼロメートル地帯である事を知り、関心を抱きながら聴講しておりました。

新潟地域振興局での室内学習を終え、2班に分かれて見学地に移動しました。はじめに、山の下排水機場に向かい、通船川での乗船体験をさせていただきました。私たちは、ライフジャケットを着用の上、船に分乗し体験しました。普段、乗船する機会がないため、生徒にとっても貴重な経験となり、水位の変化に不思議な感情を抱いていたようでした。

昼食休憩をはさみ、午後からは福島潟水門の工事現場に向かいました。現場では、工程についての説明や工事概要についての説明を受け、生徒から技術者の方に対して質疑応答もしていただきました。1年生であるため、まだまだ専門的な知識が乏しい中でも、生徒個々の視点で建設現場を実際に見学できた事は、とても有意義だと感じました。実際に見た



り感じたりした事を、今後の授業の中に組み入れながら活かしていきたいと思いました。

おわりに

この見学会をとおして、生徒一人一人は、日ごろ学んでいる「土木」という分野について、より身近に感じる事ができ、学ぶ意欲を刺激できたと思います。今回の体験が、日常生活を送る中でも、土木の視点で考えられるようになり、進路を見据えて学習に取り組める契機になる事を期待しています。学校で土木を教える教員としては、建設業に携わる方々のご協力をいただきながら、将来の土木技術者育成に力を注いでいきたいと思ひます。

最後になりますが、「身近な社会資本の見学会」開催に伴い、NPO法人にいがた地域創造センター様をはじめとして、たくさんの関係機関の皆さまのご尽力があって、実施していただいた事に大変感謝しております。これからも、よろしく申し上げます。

■生徒の感想

○今回の現場見学を通して感じた事は、新潟工業の先輩たちが世の中のいろいろな現場で働いていることにとってもビックリしました。

自分が質問した事に対して想像していた3倍の量の言葉で返してくれて、とてもスゴいなあと思いました。自分ではみんなの前などで発表することが苦手なのですが、現場の担当者は恥ずかしがらずに発表していてとても真似したいと思ひました。

自分も現場見学の時にいた方々のような人になって新潟に貢献して行きたいと思ひました。

○今回の体験では、普通の学校では体験出来ないこと、見られないもの、学べないことがあって、貴重な1日になりました。体験できたことは、乗船です。

2つの仕切りがあって、行きは水が流れてきて増水して、帰りは水が排水されて、初めての体験でした。普段見られないものを見られたのは、水門工事現場です。2つの種類の仕切りを見ることができました。丸型の仕切りとぎざぎざの仕切りを見ることができました。学べたことは排水機場がなんであんなに長いかというと船が丸太を運んでくるのであの位長くないと運べないと知りました。



○現場見学をして自分たちの生活があるのは見えないところで頑張って作業をしている人たちがいるからだと改めて実感しました。何十年前からも橋をかけたり、排水機場を造ったりしてとても安全で便利だと思ひました。お金、時間、材料などがかかる分、今世の中に必要なものだと思います。人のために働いて他の会社と協力し、物を完成させることができる人たちに感謝し、自分らのできることを見つけて生活して行きたいと思ひます。人のために働いて喜んでもらえるようになりたいと思ひます。

この現場見学は楽しく、充実した1日だったと思ひます。

■受託者の感想

○今回は、建設中の現場を福島潟水門本体工事にし、現場で働く人（若手技術者）と意見交換を行い、生活・暮らしの安全安心を守る建設産業の魅力と重要性、また、そこで働く人から土木技術、魅力などを聞くことにより、「担い手」の重要性や土木事業に関わるやりがいや魅力をアピールすることがポイントでした。

意見交換では多くの質問が出され、生徒からの見学会レポートにも「将来土木で新潟に貢献していきたい。」「土木の人々のおかげで自分たちの生活がある。」など、記されており、今回の事業が今後の建設産業への担い手確保・人材育成支援に有意義であったと考えております。

(支援事業)

万内川砂防公園サマーフェスティバルに関する ボランティア活動報告

(広報部)

1. 活動目的

万内川砂防公園サマーフェスティバルの開催は、地域住民や観光客に対する土砂災害の知識の啓発・普及を図るとともに、万内川等の登録有形文化財及び砂防公園の保全・環境整備を行いつつ、自然豊かな妙高市西野谷、両善寺地区周辺を広く紹介するため行っています。

2. 活動内容

1) 砂防文化財パネル展

パネル展は、万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環として地域住民や観光客に対し、砂防災害に関する知識の啓発・普及を図ることを目的とし、妙高砂防事務所と連携して開催しました。展示パネルは、新潟県の地質概要図、土砂災害の種類と発生しやすい気象及び注意すべき異常現象、土砂災害基礎調査、登録有形文化財等の概要です。

開催期間 令和元年7月20日(土)～28日(日)

場 所 道の駅あらい「くびき野情報館」

内 容 出張地すべり資料館、登録文化財
土砂法等の写真展示・説明

入館者数 408名

説明・準備撤去等対応 会員数 延べ25名



2) サマーフェスティバル事前準備

(施設点検、会場草刈り)

サマーフェスティバル実施のための事前準備として、文化財めぐりツアーに先立ち、砂防堰堤や斜路工等の登録文化財の保全状況確認のための施設点検を妙高砂防事務所と合同で実施し、水叩き部損傷箇所などを確認しました。

また、NPO法人砂防ボランティア協会、NPOにいがた地域創造センターの会員と西野谷地区住民、民間企業が中心となり、万内川砂防公園及び登録有形文化財周辺、臨時駐車場の草刈りを行いました。

・施設点検(妙高砂防との合同点検)

令和元年7月30日(火) AM

参加会員数 4名

・会場草刈り

令和元年8月2日(金) PM

参加会員数 32名



3) サマーフェスティバル当日対応

そして当日は、今回のテーマ「さぼうこうえんで“のんびり遊ぼう”」のコンセプトで、幼児・小学生とその家族を対象としたイベントとなりました。来場者の子供の割合が約4割であり、昔あそびゲーム、文化財めぐりツアー、紙芝居、砂防クイズ、ニジマスのつかみ取りは、来場した子供たちの心をつかみ、盛況でした。

開催日時 令和元年8月10日(土)

場 所 万内川砂防公園

来場者数 1,467名

参加会員数 23名

<活動状況>

会員手作りの弓矢、竹トンボ、ゴム鉄砲、シャボン玉、笹船等を用意し、「むかしあそび」コーナーを設置して、子供達にも大変好評でした。



活動状況報告

(平成30年11月～令和元年10月)

■ 平成30年

- 11月20日 第61回理事・監事会議
・平成29年度決算
・平成30年度予算(案)
・平成30年度の新役員体制について
- 12月14日 第62回理事・監事会議
・新旧理事・監事の退任、就任の承認
・平成30年度総会資料の確認
- 12月14日 第63回理事・監事会議
・理事長・副理事長の互選
- 12月14日 平成30年度通常総会 (新潟東映ホテル)
・平成29年度事業報告及び収支決算の承認
・平成30年度事業計画及び収支予算(案)
・役員改選
(正会員280名、うち出席者113名)
- 12月14日 講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)
・講演1
「最近の土木行政について」
新潟県土木部長 中田 一男 氏
(代)土木部技監 宮野 岳 氏
・講演2
「人生100年時代、あなたは何歳まで生きてますか?」
新潟県薬剤師会 会長 山岸美恵子 氏



■ 平成31年

- (4～9月) 河川情報モニター [受託事業(新潟県土木部)]
(通年) 都市公園情報モニター [受託事業(新潟県土木部)]
- 2月5日 河川情報モニター地域担当者会議
- 4月29日 第32回新潟県都市緑花フェア(新潟県スポーツ公園)で記念植樹



■ 令和元年

- 5月17日 建設技術センター主催 けんせつセミナー2019
「初任者技術研修」「災害復旧(1)」に講師派遣

- 5月30日 新潟県土木部職員研修「災害復旧(模擬査定)」に講師派遣
- 6月3日 都市公園情報モニター担当者会議
- 6月6日 新潟県土木部職員研修「河川計画」に講師派遣
- 6月14日 新潟県土木部職員研修「指導者(課長)ー地域が期待する課長職ー」に講師派遣
- 7月24日 にいがた道の研究会 第17回トーク会 (新潟会館) [支援事業]
・講演1 新潟県の道路管理を巡る最近の話題2019
新潟県土木部道路管理課長 坂西 和也 氏
・講演2 知っていそうで知らない!?!?の中
新潟市保健所健康増進課歯科衛生士 田中 知恵 氏
・参加者: 60名



- 7月20日～7月28日 (万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
パネル展「登録有形文化財万内川石積堰堤群等」
(道の駅あらい くびき野情報館) [支援事業]
・入場者: 408名
- 8月5日 第64回理事・監事会議
・身近な社会資本の見学会について
・地域懇談会について
- 8月10日 万内川砂防公園サマーフェスティバル (万内川砂防公園) [支援事業]
・入場者: 1,467名
- 9月10日 「身近な社会資本の見学会」 [受託事業(新潟県土木部)]
・対象者: 新潟工業高校 生徒35名
①身近な社会資本の役割、建設産業の役割、担い手育成を資料で学ぶ。
②既存の社会資本見学 (乗船体験: 山の下排水機場、通船川)
③建設中の社会資本見学 (福島潟水門築造工事)
- 10月7日 第65回理事・監事会議
・「身近な社会資本の見学会」実施報告
・地域懇談会(in佐渡)の開催について
・機関紙「ちいきそうぞう(第15号)」について
- 10月25日 新潟県土木部職員研修
「危機管理広報(クライシスコミュニケーション)事例紹介」に講師派遣
- 10月30日～10月31日 第7回地域懇談会 in 佐渡 (Ryokan「浦島」)
・講演1: 「佐渡地域整備部における土木行政について」
佐渡地域整備部長 松川 真 氏
・講演2: 「佐渡観光の未来を創る」
清永 治慶 氏
・参加者: 60名

河川情報モニター実施報告

(企画部)

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も、平成18年の開始以来14年目となりました。令和元年は、148名（延べ482名）の会員の皆様のご協力により、4～10月で4回程度127河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

令和元年（4～10月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長(km)	NPO配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副任				
村上	高橋 一男	伊藤 勝夫	8	11.2	5	12
新発田	渡邊 秀美	鈴木 輝正	1	27.0	10	36
新津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.7	20	72
津川	加藤 勝男	中野 俊	3	17.8	3	9
新潟	村木 昭一	田邊 敏夫	6	45.6	12	12
巻	佐藤 敦	渡邊 和敏	7	138.4	13	42
三条	高柳 寿光	星野 正三	12	107.4	8	32
長岡	吉野 利夫	新保 弘	9	116.8	29	100
与板	吉野 利夫	新保 弘	3	47.0		
小千谷	吉野 利夫	新保 弘	6	37.8		
魚沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	5	20
十日町	樋口 利幸	井口 久雄	10	105.2	9	29
南魚沼	中澤 淳一	柄沢 安衛	3	30.6	4	15
柏崎	今井 英伸	野中 孝次	2	34.4	4	12
上越・上越東	近藤 利章	江口 正芳	9	141.3	16	57
糸魚川	江口 正芳	近藤 利章	3	40.6	4	10
佐渡	小鷹 賢正	藤井 武良	11	56.0	6	24
	計		127	1,112.2	148	482

都市公園情報モニター実施報告

(企画部)

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

令和元年 都市公園モニター担当者

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	古嶋 秀一	白石 光夫
聖籠緑地・島見緑地	佐藤 敦	樫内 睦夫
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	高木 努	阿部 高次
スポーツ公園北地区	村木 昭一	田中 明
スポーツ公園南地区	吉田 茂	原山 茂
県立植物園	湯田 寛	笹川 栄
大潟水と森の公園	諏訪部 豊	山田 修一



組織図（理事21、監事2）

当NPO法人の役員（任期2年）及び各部員は次のとおりです。



各 部 (○部長 ○副部長)

総務部	○鈴木 興次 歌川 実 小林 孝一 高木 努 星野 敏 ○新部 正道 今井 英伸 高橋 亮一 外山 晃 星野 正三
企画部	○渡邊 和敏 原山 茂 小泉 良彦 渋谷 吉則 ○吉田 茂 高柳 寿光 田邊 一喜 中野 俊
事業部	○常山 哲 樋口 利幸 渡邊 文男 林 和敏 ○藤井 武良 村木 昭一 乙川 秀夫 田中 明
広報部	○大竹 伸一 近藤 利章 加藤 勝男 ○久須美憲二 鈴木 義朗 立川 達生

会員の動向（会員数）

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月	平成28年度 H28.12月	平成29年度 H29.12月	平成30年度 H30.12月	令和元年度 R1.12月
正 会 員	164	293	296	298	298	280	274	275	282
賛 助 会 員	個人	—	1	1	1	1	1	1	0
	法人	—	152	156	156	157	159	163	169
計	164	446	453	455	456	440	433	439	451

編集後記

令和元年発行となります第15号の編集を無事終えることができました。制作するにあたり執筆していただいた方に心より感謝いたします。

県土木部と連携して行っている「身近な社会資本の見学会」は今年で7回目を迎え、新潟工業高校からも毎年恒例のように期待され、大変有意義で好評だったことが教師、生徒の感想文から伝わってきました。建設産業が直面している重要課題の一つである担い手確保育成の一翼を少しでも担うことができれば幸いです。
(S.O.)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 田宮 強志

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(一財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877